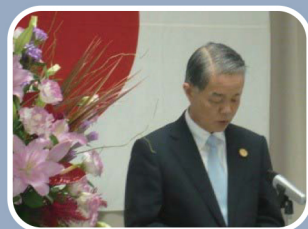




代表者がナイチンゲール像の持つ蠟燭へ火を灯し、
戴帽された学生に小さな明かりがひとつふたつと増えていきました



佐川町 副町長
中澤 一眞 様



学院長
近藤 御風

55期生厳かな戴帽式

晩秋の山々の紅葉も深まり始めた折、令和元年11月7日14:30より清和准看護学院にて第55期生戴帽式を迎える事ができました。看護を志し入学して以来病める人々の手助けとなる看護とは何かを日々研鑽し、努力を積み重ねてきました。半年間、様々な分野の専門知識・技術を学び看護の心を胸に刻み、難関の戴帽試験を合格しこの日を迎えることになりました。

式典では、近代看護の祖F.ナイチンゲールの看護の精神を継承し、一人一人にキャップを戴き、ナイチンゲール像の燈火から「博愛、献身、責任、公平、平等の看護倫理の精神」を継承した瞳の奥には、「患者様の命を支え、苦しむ人々のそばにあって、看護者としての責任と使命感を持って、命の尊さをかけがえのないものとし、命に寄り添い、病気を持った人間として理解して向き合える看護師を目指したい。その為に看護に必要な知識・技術・態度を習得するために日々精進します。」と新たな誓いで輝いていました。

学院長の式辞では、『新たに戴帽を許可され、病院での実習が始まります。それに当り、ナイチンゲールが学生に託した手紙の一説を記念として戴帽生に送りたいと思います。』それは、『どのような訓練を受けたとしても、もし、感じる事、自分でものを考えること、この二つの事ができなければこの訓練は無用なものになってしまうものです。患者さんが出す小さなサインにも気づき、それをなおざりにすることなく、その意味を考え、その方の思いを汲んだ看護の実践を体験していく事が優れた看護師となる、小さな一歩になることを忘れないでください』しかし、『日々学習を積み重ねて来ても、いざ実習となると不安や緊張を感じ、時には患者様の前でたじろいでしまうことがあるかもしれません。でも、学習を努力し続ければ必ず成果がついてくること、挑戦し続け努力する事が実習では最も大切なことだという事を忘れないでください』。そして『人として、病で苦しむ人の看護に携わる者としてどのような人間でありうるのかという事が問われ、人の痛みや苦しみ、喜び、悲しみがわかり共感しあうことができ、病と闘う患者様に勇気を与えることのできる人となってくれることを望みます』と学院長の表情は熱く語り続けられ『看護の道の歩んでいく看護師の果たす役割の大きさは、人が健康で安心して暮らしている社会の基本的テーマを担うものであり、今まで以上に評価され、期待されてきています。』更に『看護師による前向きなケアが、医師による治療行為と同じくらい回復への重要な節目になっていることが解って来ています。』等訓示を頂き、身の引き締まる想いでした。この2年間は、仲間と共に助け合い、共に勉学に励み、常に向上心を持って自己研鑽を怠ることなく頑張っていく決意をもって、今日この日を看護の新たな出発点としこの道を志したことに責任を持ち日々精進することを誓い合い、戴帽生全員で喜びと感動を噛み締める事ができる記念すべき日となりました。

これからの2年間、実習施設の皆様方のご支援ご指導の程何卒宜しくお願い致します。

清和准看護学院
令和元年11月26日
教務課長 武吉照子

せいわ

2020
医療法人青雲会
清和病院
新春号

●2020年1月発行 ●年4回(1月、5月、8月、11月)
●高岡郡佐川町乙1777
●TEL.0889-22-0300 ●FAX.0889-22-1777
●清和病院広報委員会発行

基本理念

私たちは、患者さま方に良質で安全な満足感のある高度な専門医療技術の提供と、地域における救急医療、保健・福祉サービス、介護などの生活の質(QOL)の向上に寄与することを目指します。

新年のご挨拶

新年 あけましておめでとうございます。

日頃より当法人の運営および医療サービスにご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

医療法人 青雲会理事長
清和病院院長
近藤 近江



元号改正、令和元年、と活気づいていたかと思えば、はやくも令和2年の新年を迎えました。様々なことが非常にはやいスピードで変化をしているように感じております。医療・介護においては【2025年問題】にむけて大きな過渡期を迎えそうです。2025年、団塊世代が全員75歳以上の後期高齢者になります。医療費抑制を図りたい厚生労働省は、病院のベッドの大幅削減をかけた、高知県は2025年には約4千床減らすと算定しています。さらには「療養病床」過剰との判断のようです。

当院の患者様の平均年齢は80歳と高齢、90歳を超えた方も多くおられ「今日の入院さんは83歳…」と聞けば、まだ若いね、なんて感じてしまう今日この頃です。高齢になると、気温の変化や晴れのち曇りなどというちょっとした気候のゆらぎで心身のバランスがガタッと崩れる。けれど、救急ではない…そんな方々にとっては、期限のある回復期病棟での治療よりも療養病棟の方が安心して状態改善を図ることができるのでは…。そんな想いもありながら、気づけば私自身も後期高齢一歩手前の年齢となりました。人生100歳時代、まだまだこれからです。職員と一丸となって

日々の診療に真摯に努めて参ります。
本年も変わらぬご支援ご理解を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。



ここに一闪あり～特別編～

令和元年/2019年度は当医療法人青雲会の法人創立65周年を迎えた年です。

令和2年、また新たな歩みを進めて参ります。

本院の歴史とともに、10年以上勤続してきた職員は、60名を超えます。

新春号では、歴史の流れを現場で感じてきたベテラン職員の紹介をさせていただきます。

看護・助手部門

勤続
39年



看護師 西田 千恵子(最長勤続者)
いつも笑顔で、明るく、そしていつも美しく活力に満ちています。「チーちゃん」と年齢関係なくどの職員からも慕われ、患者様からも信頼されるその秘訣はなにか…。これからもたくさんのお話を教えてください。
写真は「もうこらえてえ～」ということで事務中越玲耶作のイラスト(10分程で完成!!)です。

勤続
25年



看護師 小野山 憲二
2病棟4階(精神科閉鎖病棟)の小野山です。平成元年に清和看護学院へ入学して以来、一時代を清和病院ですとお世話になっています。こんなにも長く勤めることができたのは、先生方をはじめスタッフの皆様がとても優しく、アットホームな雰囲気のある職場だから、楽しく業務を続けてこられたのだと感じています。最近では自分でも衰えを感じるようになり、仕事の効率も悪くなってきましたが、定年まであともう少し頑張っていきたいと思っていますので、どうかよろしくお願いします。

勤続
17年



看護師 井上 文男
私は清和病院で奨学金を頂いて看護師になり、働かせて頂いています。また職場を通じて結婚も出来ました。
お陰様の心を忘れず、これからも精進していきたいです。妻は事務で勤続13年目です。(右ページにいます)

勤続
10年



看護師 藤本 由美
私の勤務しはじめと、娘の小学校入学が一緒でした。あれから10年経ち、娘も高校2年生となり看護師を目指しています。娘には、患者様に触れて感じとることの大切さを学んでほしいと思っています。私はいまだに成長できておらず迷惑ばかりかける未熟者ですが、患者様に安心感を与えられるような看護師になれるよう努めていきたいと思っています。

勤続
13年



看護助手 矢野 史恵子
13年間 働かせて頂き、未成年だったのが成人になり、色々な人たちと触れ合って価値観の違いや社会の厳しさを知ることが出来、人間的に成長することができたと思っています。次の目標は、利用者様から信頼して頂けるよう頑張りたいと思います。

コメディカルスタッフ部門 ＜パラメディカルスタッフ＞

勤続
38年



臨床検査技師 川崎 佐恵
臨床検査技師になって清和病院に入職して37年になります。入職していろいろな場面で患者様と接する機会があり戸惑うことも多々ありましたが、多くの経験をさせていただきました。また、検体検査を通して患者様の情報を得ることができ、病態等を考える機会を得られることは大きいと感じています。

勤続
21年



診療放射線技師 田村 達彦
振り返れば勤続20数年、定年を迎え雇用延長で現在に至りまだまだ頑張っている勤務継続中です。全てが順風万帆ではなく、紆余曲折を経て時にはいろいろとちらほらとありました。長期にわたる勤務となると病院への不満もあるがそれを越える何かの魅力があったのであろう。家族の為、入院中のおふくろの為、まだまだ頑張っている間は勤務していこうと思います。ただただ、これまで働けた環境に感謝!! これからも働ける環境に感謝!!

勤続
23年



看護師 徳弘 佳代子
私が勤務し出した頃、建物は木造で冬には待合に大きな石油ストーブが出されていました。外来宿直の明けには朝6時に起床し、石油ストーブをつけるのですが、それまでの寒いことといったら…。現在は夏も冬も快適に仕事ができありがとうございます。

勤続
13年



井上 良美
初めての職場が清和病院で、不安や大変なこともありましたが、様々な業務を通して、成長させていただきました。これからも初心を忘れず、頑張りたいと思います。

勤続
11年



作業療法士 竹島 学
作業療法士の竹島と申します。清和病院に入職して今年で12年目を迎えました。入職した当初は作業療法士の人数も少なく、自分なりに勉強しながら仕事をしていく毎日でした(入職前はシステムプログラマーでした)。現在では作業療法士の人数も増え後輩の育成を担当する立場となりましたが、まだまだ力不足を痛感している毎日です。その中で仕事を今まで続けてこられたのも、様々な職種の方に恵まれたからだと思います。今後もより一層患者様の事を考えられるリハビリを提供できるよう、自己研鑽と後輩の育成に努力したいと思います。